

編集後記

編集長(ダン シロウ)

「誰も読んでないのでは？」と先日ある人に言われました。読者が何人あるかをカウントしたりしないので不明です。しかし読んで下さっている方があるのは、いろんな出来事で確認できます。

講演会やWS会場で声をかけていただきますし、連載をきっかけに新たな仕事の繋がりが生まれたと執筆者から聞くこともあります。本誌連載が単行本になったのも数冊、講演依頼が来たり、NPOが活性化したり。

アクセス何件突破とか、何部増刷とか、そういう尺度ではない広がりを目指してきました。経済高度成長期に「大きいことは良いことだ！」と言っていたような価値観を払拭できないまま、右肩上がりの経済モデルに毒された意識からの脱却を心がけてきました。

多く売れるものが良いものだ！なんてわかりやすさの持つ軽率さにはウンザリでした。だからといって、趣味のミニコミのような自己満足物を作っているつもりもありません。そもそも、そういう対比的発想自体が古くさいと思うのです。

読んで貰いたい人に、まだ今から遭遇するであろう人たちに向けて、最新のモノを整えて静かに待っている、それが対人援助学マガジンです。だからバックナンバー10年分も常備です。イノベーション(技術革新)はそのために起きたのだと考えるのが適切だと思います。

古い考え方の人を置き去りにして、新しい物好きでマーケットを作って集まろうなんて発想でもありません。そんなことをしている業界がちらつきますが、それこそ古くさい下克上。そんなことをしてきたのでもありません。

いよいよ次号から11年目に突入です。新たな書き手も、読み手も更に広く求めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

編集員(チバ アキオ)

人生の編集を始めた。私の父が勤めていたのは転勤のある会社。そのため、私は秋田生まれであるが、子ども時代から学生時代まで関西で過ごし、自動的に関西で就職した。転勤が終わった父母は関西を離れ、そこで原家族は解散となった。その後、実家のある秋田に父母はいき、私は京都で過ごしてきた。京都には仕事があり、その仕事に夢中だったからである。障害をもつ友人たちと小学校、中学校で過ごし、キャンプリダー、スイミングインストラクターで子どもたちの成長に驚き、仕事として障害者福祉の現場から始まった。上司に恵まれ、職場に恵まれ、同僚に恵まれ、スタッフに恵まれ、勉強仲間に恵まれ、ここまで来た。仕事しながら、院まで行かせてもらった。

人生80年、いや100年といわれる今。私はその真ん中あたり、様々広がった人生を一度区切ってみようと思った。段落である。まだまだ仕事がしたい。これまでの経験をベースに様々な仕事にチャレンジしてみたい。そう思った。そういう自分にも驚いた。

ルーツの秋田にも恩返しをしよう！これが今の私の至った一つのプラン。そして、自然と涙が出た。私しかできないことで、これまで全くしていなかったことが秋田にある。東京への一極集中、人口減少に対して、自分ができることをする。新たな挑戦である。この挑戦は自動的に、マガジンに報告していくことになるだろう。

編集員(オオタニ タカシ)

2月中旬以降、世の中は新型コロナウイルスに翻弄され、3月に入ってからは、公立学校の一斉休校、イベントや集会の中止・自粛が相次ぎ、ウィルスの感染拡大が抑え込める見通しも持てない中、混乱の度合いは日々増していくばかりのように感じます。

今回の新型ウィルスは、まだ医学的な見解も乏しければ、感染拡大の状況についても確かな情報が少なく、世の中に不安が広がるのは無理のないことだと思います。世の中に広がる不安が、さらに人の心理や行動を抑制し、人々が活動自粛に向かうのも自明の

ことです。過剰にはならず、適切に心配し、必要な対応をとり、日々の生活を紡いでいければと思います。

このような状況の中、対人援助学マガジン 40 号を、いつも通りお届けできることをとてうれしく思います。執筆者の皆さんから届く原稿を無事の便りのように感じ、また書かれている内容が時勢には流されない強さを持っていることにも、とても励まされました。コロナの騒動が終わっても、私たちの生活は続くのです。不安とも適切に向き合いながら、これから先も 1 日 1 日を積み重ねていきたいと思っています。

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は
danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町4 3 8
ランプラス二条御幸町4 0 2 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻40号

第10巻 第4号

2020年03月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第41号は2020年06月15日
発刊の予定です。

原稿締切2020年05月25日！

執筆者募集

10 年目を迎えたマガジン。新たな書き手を求めています。

新たなジャンルからの、書き手の登場に期待します。

自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分の専門分野の今の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

連載誌です。必要な回数を、書いていただけるよう設定します。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

執筆資格は学会員であること。非会員で書いていただく事
になった方には、対人援助学会への入会をお願いします。

対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

表紙の言葉

ちょっと気持ちの悪い表紙。「老人と海」と言えば、ヘミングウェイだった。大海原に小舟でたった一人、カジキとの激闘の末、勝利はするが、魚体は血のにおいに誘われたサメに食いちぎられて、成果は持ち帰れない話だったと思うが、読んだのは五〇年近くも前だろう。ひょっとしたら、読んでいないかも。映画を観たのだったか？誰が主演？

ここでは最近の老人である。ジム老人が、普段のプールから海に来た設定だ。私はジムで見かける筋肉老人がグロテスクで気持ち悪く、利用するのを止めた。やたら裸になりたがり、我が物顔でジムの若いスタッフに横柄な態度を取る年寄りが男女を問わず大嫌いなので、年間会費だけ払って一回で行かなくなった。

最近運動不足かもしれない。これをきっかけに、再チャレンジしてみるかなあと思っていたら、新型コロナ騒ぎ。年寄りには家で大人しくしていると言うことか。

(2020/03/15)